

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3290100225		
法人名	医療法人社団 水澄み会		
事業所名	グループホームアゼリア まめなユニット		
所在地	島根県松江市黒田町475-7		
自己評価作成日	平成24年8月11日	評価結果市町村受理日	平成24年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JirjvsoyCd=3290100225-00&amp;PrefCd=32&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JirjvsoyCd=3290100225-00&amp;PrefCd=32&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 応援団		
所在地	島根県浜田市相生町3948-2相生塚田ビル1階103号		
訪問調査日	平成24年9月7日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

個別に外出したり、地域の方にボランティアとして来て頂き交流を図っている。プラン変更時などに家族や他職種にカンファレンスに参加して頂いている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

同市に法人の新規事業が始まり人員の入れ替わりが多く、職員の半数は新規採用され、新しいスタートの年となった。職員が変わっても利用者へのケアへの思いは引き継がれ、新規採用職員にも理念が浸透し利用者の生活は変わらず継続している。朝起きる時間やお昼を食べる時間も利用者それぞれの体調や思いに寄り添い日々の暮らしを支えている。公民館で月に1回行われる「よりあい喫茶」に利用者数人づつが参加するようになり、地域と事業所のつながりがさらに増し、今年度からマジック・大正琴をボランティアで披露してもらったり、傾聴ボランティアも新たに加わった。地域との連携に努め、交流が広がっている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について法人の研修で学んだり、日々のケアで自分に置き換えて考え実践するようになっている。	今年度は新入社員の採用が多かったが、自己評価で毎月振り返りを行い、達成状況をそれぞれが確認することで理念が浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回、地域交流するように計画をたて実践している。(ボランティアに来て頂いたり、公民館に出掛けたり)	地域の公民館行事に参加するようになり、地域のボランティアの和が広がってきている。日常的に地域とのつながりを持つ努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等の場で地域の方に認知症の支援の方法等を発信している。積極的に実習生の受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、日々の様子や取り組みを報告し、意見や助言を頂きサービスに活かしている	今年度は運営推進会議の年間計画を立て、定期的な開催となるよう取り組んでいる。議題も多く、参加者との意見交換も活発に行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	広報などを市役所に置かせてもらっている。運営推進会議に参加して頂き、意見交換を行っている。	事業所での取り組みや利用者の現状を理解してもらっている。日頃から関係を持って必要に応じて相談や助言を受け、良い関係が継続している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議の中で、身体拘束に関する学習会を行い職員の共有認識をはかっている。利用者が外出しそうなどときにはさりげなく声かけを行ったり、一緒について行ったりしている。	毎年研修を実施し、意識の共有も行われている。見守りや声掛けなど安全面に配慮することで身体拘束を行わないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議の中で、勉強会を行い、虐待について、理解や認識を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修があれば参加している。権利擁護の必要な方には、活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の説明は丁寧に行っている。利用料や看取りについても説明し、グループホームで対応できることについても説明し、納得して頂くように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や推進会議、面会時に家族さまの意見を聞くようにし、運営に反映させている。	年に1回アンケートを実施し家族意見を聞く機会を設けている。家族意見を受け、ユニットごとのアルバムを作成したり、部屋にも写真を飾るようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや勉強会を月一回行い意見を聞いている。また、半年に一回個別面識を行っている。	利用者の支援に関して、意見を出し合い職員間で話し合う場を設けている。管理者は職員とコミュニケーションを図るように努め、職員は意見を言いやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得について支援してもらっている。体調の悪い時に休みやすい雰囲気を作ってもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に合わせて法人内で研修を行っている。法人外の研修も情報を提供し、必要な職員に参加する機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の同業者と毎月交流する機会があり、相談などもしている。市のグループホーム会議にも参加し交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活情報を把握するように努めている。本人の不安なことや要望を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族と話しをし、不安や要望を聞き関係作りに努めている。 グループホームでどこまで対応できるかについても説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、安心・納得しながら利用できるような心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物をたたんで頂いたり、料理の盛り付けをして頂いたりして、できることはお客様にして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に一回家族様に手紙を送り利用者の様子を伝えている。運営推進会議ではスライドショーを見て頂き一緒に支援していく関係を築くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の面会があり、一緒に歌を歌ったりしている。家族や知人に電話をしたりして馴染みの関係が途切れないようにしている。	職員と一緒に自宅への一時帰宅や墓参りなど利用者・家族の希望に応じて馴染みの人との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶や食事の時間は職員も一緒に会話に参加し、お客様同士の関係が円滑になるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合は情報提供し、これまでの暮らしの継続性が損なわれないようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で声掛けをし、言葉や表情などからその真意を汲み取るように努めている。 意思疎通が困難な方には、ご家族から情報を得るようにしている。	利用者の状況や状態についてアセスメントを行い思いや意向の把握に努めている。継続性が必要なものはケアプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族様より情報を提供してもらい、生活歴、馴染みの暮らし方を把握するようになっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解するとともに、できることはやってもらうようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族様より思いや意見を聞き、プランを作成している。 職員全員でプラン評価し、カンファレンスを行っている。	介護計画変更時には家族を交えてカンファレンスを実施し、現状を知ってもらおうと共に思いも引き出している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分量・排泄等、身体的状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の要望などに応じて、急な外出等にも臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館の喫茶に出掛けている。 買い物に店へ出かけたりしている。 傾聴ボランティアさん等に来て頂いて協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医になっている。2週間に1回往診に来て頂き、状態変化時は報告し、指示をもらっている。	希望する医師がかかりつけ医になっている。現在4人の医師が往診に応じ、医師と連携を取りながら安心した生活を送れるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	お客様の状態変化時や気づいたことがあれば看護師に確認、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはこちらから情報を送り、病院からも情報を頂き把握している。 早期に退院しグループホームに帰ってこれるように連絡、カンファレンスをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時の確認書を取り、カンファレンスをして共有している。 終末期の意思確認もしている。	ターミナルの実績もあり、本人・家族の希望があれば対応している。急変時の学習会を行うことで職員は不安なく統一したケアが行えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の研修や全体会議でも内部研修している。ユニット内でも学習会をしている。 事故が起こったときの連絡等についても確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練をお客様と一緒にしている。 消防や地域の方にも来て頂き定期的に避難訓練をしている。	地域の消防団員の方にも避難訓練に参加してもらったり、地域の避難訓練に職員が参加している。夜間を想定した避難訓練も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様に話かける際は話し方に気を配るよう心がけている。また、お客様の情報については、守秘義務について十分に理解し、管理を徹底している。	一人ひとりの利用者に合わせた声掛けを心がけ、暖かく優しい雰囲気でお話しかけるよう心がけられている。気になる場面があればチームで話し合い、解決策を模索している。	新人職員も多く、統一したケアを行うためにも利用者を尊重した言葉かけ・対応について考える場を多く持つよう期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お客様の意見や要望をお聞きし、調理の際は参考にさせて頂くことがある。 お客様に買い物を頼まれることもあり、本人様が意思決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、お客様の様子や体調を考慮しながら、又希望を尋ねながらできるだけ個性のある支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る方は、本人様におまかせしてお好みの恰好をして頂いている。自分で出来ない方は職員が好みを聞いたりして支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お客様に料理の盛り付けや食器を拭いて頂いたりしている。	一人ひとりが出来る範囲で食事の支度や片付けを行っている。栄養面を考えあらかじめメニューを決めているが、利用者からリクエストがあれば変更し、取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎回チェックしている。必要な方は水分量もチェックしている。 個々のお客様に合わせた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は自分でして頂いている。 出来ない方は職員が口腔ケアをさせて頂き、嚥下障害による肺炎の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意がないお客様にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。	外部のおむつ講習会に参加するなど、利用者にとってより良い状況を模索している。パットの当て方を変更し、交換枚数を減らすことにも成功している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	週一回ヨーグルトを提供している。また、ホットミルクも提供し、便秘対策を行っている。ラジオ体操や散歩等の運動も定期的に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否があるお客様には言葉かけや対応を工夫している。 入浴時はお客様とゆっくり話す機会を作っている。	2日に1回午後の入浴となっている。利用者の希望に合わせた入浴も可能である。入浴しない日は清拭や足浴を行い清潔保持をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく起きて活動して頂き、生活のリズムを整えるよう努めている。昼食後は午睡の時間をもうけゆっくり休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表をカルテに綴じ、職員全員が薬の内容を把握するよう努めている。 お客様の状態に変化があればすぐに主治医や看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お客様が出来ることはやって頂き、終わったら感謝の言葉を伝えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外にかけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に公民館の喫茶に外出している。 個別外出の機会をつくり、お客様の希望に合わせて外出している。	利用者の重度化が進み全員での外出は難しくなったが、利用者の希望があればその都度職員が対応し、外出支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額のお金を持って頂き、買い物の時に自分で出して買い物している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を取り繋いで直接話しをしてもらうよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には作って頂いた作品を展示したり季節に合った飾りつけをしている。 温度調整も職員がしており、快適に過ごせるように配慮している。	共用空間は掃除も行き届き清潔感がある。 地域の方が撮った季節感のある写真が飾られ、利用者の楽しみの一つとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったお客様同士が話せるように席の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力も得ながら家具や馴染みの物を持ってきて頂いたり、壁に飾ったりしてお客様が居心地よく過ごして頂けるように努めている。	居室の入り口は利用者の好みに合わせてのれんや千代紙などで個性的になっている。年末には家族も一緒に大掃除会を行い利用者が使いやすいように一緒に考える時間を設けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに目印をつけたり、日めくりカレンダーにより自立した生活が送れるように支援している。 居室はお客様が伝って歩けるように家具等を配置している		